

令和4年度山形県立置賜農業高等学校 入学式 校長式辞

日ごと暖かくさわやかな風が通り過ぎ、北国の学び舎も瞬く間に美しい桜に包まれ始めています。希望に満ちた日々はすでに訪れ、その中で歩き始めた私たちの足音が季節の足音と重なり始める今日の良き日に PTA 会長 小林俊一様のご臨席を賜り、令和4年度山形県立置賜農業高等学校の入学式を迎えることができた喜びを深く感じております。

今、社会はこれまでにない速さで絶え間なく変化し続けています。成人年齢が引き下げられたとはいえ、これから大きく成長するさなぎのような、初々しさとおぼつかさを併せ持った子どもたちを適切に導き、ある時は不退転の壁となって厳しくも温かく守り切ることが今ほど重要な時はありません。教職員、保護者の皆様を含めた周囲の大人がしっかりスクラムを組んで安定した教育環境をつくっていくことの必要性を改めて痛感するところです

さて、ただいま入学を許可した66名の新入生の皆さん、ようこそ置賜農業高校へ。心より歓迎します。

本校は開校以来127年の歴史を持つ、県内最大規模の農業高校です。地元の産業、経済を支えてきた伝統を基盤とし、通称「おきのう」として古くから地元で親しまれ愛されてきました。学校の統廃合などで、最近では農業という名称を手放す高校も多い中、「おきのう」はこの名の下に地域の人々とともに長い歴史に数々の足跡を刻んできました。

質実剛健、誠実明朗、実践奉仕を校訓とした本校の教育は、斬新で高度な技能と経営感覚を身につけた地域農業の担い手をはじめ、多様な分野でその中核を担う優秀な人材の育成を目指すものです。本校で学ぶ生徒は、長年高い評価を受けている高度な研究活動や毎年優秀な成果を収めているホッケー部など、活躍の場が常に全国レベルの分野を持つ、本地区でも数少ない学校であることを誇りに、人が生きる礎である食と農に係る深い学びや日常的な生命の観察、直接的なふれあいなどを通し、これからの時代を生き抜くしなやかな感性も自然に育んでいきます。

今学校も大きく変わろうとしています。その最も大きな流れの一つはICTと呼ばれる情報技術やAIの本格的な活用です。公立高校でも今年度から一人一台端末が導入され、それを最大限に活用した、より高度な学習活動が始まります。スマートフォンやパソコンといった皆さんの世代にとってはごく当たり前のものを、単なる調べ学習や、娯楽の道具ではなく、自分をより一層高めるための有効な手段として使用できるようになることが高校で学習していくための不可欠な条件になります。基本的な学力が軽視されることは今後もあり得ません。しかしこれから先、大きな差がつくのは、自らの意思で様々なこと

に切り込んでいく力、大らかな態度で多様な考え・生き方を柔軟に受け入れ、社会の中で自分の役割を果たしていく能力です。それを高めてください。

今日は高校に入学するというとてもめでたく特別な日です。しかし人生という長いスパンで見れば、一つの通過点でしかない。皆さんが目指す大きなものはもっと先にあります。高校生活という短い時間の中で、自分にとって少し高い目標を立て、それを見失わずに進むことが大切です。このような自分になるという確固たる目的を持ち、それに向かってできるだけ早くスタート切ってほしいと思います。

最後に、ある地方で農業経営に携わる方が書いた詩を紹介します。このような風景がいつもおきのうにはあります。

どこにあってもふわふわと浮かぶ雲^{※注}
赤と白の鉄塔の前をゆっくり流れゆく
やがて消えゆく白い雲がいい
青い空とのバランスがいい
夕暮れのオレンジ色の雲もいい
ずっと眺めていたいものだ
畦（あぜ）に腰をおろし一休みするか
日焼けした、コロナに負けない顔をぬぐう

皆さんにはぜひ輝かしい伝統と美しい自然に包まれたおおらかな学び舎で存分に勉強し、自分のため、人のために働ける社会人になってほしい。この「おきのう」で大きく成長してくれることを願い、式辞といたします。

令和4年4月9日

山形県立置賜農業高等学校

校長 鈴木 通明

※注 藤城 義和 『野良で生れたうた』『現代農業』2022.1 より抜粋